

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和6年3月29日

事業所名: 平谷こども発達クリニック社事業所はぐみ放課後等デイサービス

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			活動に必要なでないものは置かず、簡素化している。定員におけるスペースは十分に取れている。	
	2	職員の配置数は適切である	○			規定に応じた配置数である。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			玄関にはスロープ、階段には手すりを設け、手洗い、トイレも使いやすく設置されている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			目標設定や振り返りは、定期的に話し合いを持って改善に努めている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			保護者からの評価を受け、業務改善につなげていくよう全員で話し合いを行い、業務改善を図っている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			自己評価の結果は事業所に掲示している。また、法人のHPでも公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		今後、取り組んでいく。
適切な 支援の 提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			法人の研修会(ZOOM)に参加している。また、事業所内でも研修を行っている。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			アセスメントには児童に関わる職員が全員参加し、内容を分析した上で放課後等デイサービス計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			福井県が発行している「子育てファイルふくいっ子」などを参考にしている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			職員で話し合いを持ち、活動内容を考えている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			児童の発達に応じてプログラムを考えているので固定化することはない。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			個別に課題を考え、支援している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成している	○			個別の課題は個々に応じて充実を図る。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			支援開始前には必ず職員間で打ち合わせを行ない、全体支援や利用者個々の支援について確認している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			職員で話し合いながら、利用者個々の記録を行ない、支援の振り返りを行っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			毎回、利用者個人の記録を行い、関わった職員で検証し改善を図っている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			6か月ごとにモニタリングを行い、個別支援計画を見直しをしている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	○			ガイドラインを参考に活動を組み立てている。		
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			担当している職員や責任者が参加している。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○			随時、学校の情報を保護者を通して共有している。	

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	—	—	—	受け入れていない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			園への訪問や移行支援会議に参加し、情報の共有を図っている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	—	—	—		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			専門機関の研修には参加している。また、ZOOMIによる研修会にも参加している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			○		近所の児童クラブと交流する機会を設けていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○			案内があれば積極的に参加していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			送迎時に状況を伝え、共通理解を図っている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			保護者の相談には随時応じ、アドバイス等の支援を行っている。系列の事業所が行っている支援を紹介している。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時に丁寧に説明をしている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			モニタリングで子育ての悩みなどの相談に応じ、助言や支援を行っている。また、随時保護者の申し入れに応じている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○		保護者の意見を取り入れ、できる範囲で開催していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			苦情については事業所に苦情受付の窓口を設置し、対応する体制を整えている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			会報は定期的に発行している。活動概要や行事予定はお便りを配布している。	
	35	個人情報に十分注意している	○			個人のファイルは鍵の付いたロッカーに保管している。複数の方にメールを配信する際は、BBCを使っている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			視覚化を行ったり、文章を簡潔にしたりして、分かりやすく伝えている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		招待することはないが、地域の清掃活動には参加している。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			マニュアルは策定している。職員は周知している。ハザードマップ等は事業所に掲示して保護者にも周知をしている。発生を想定した職員研修を行っている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			定期的に災害を想定し、訓練を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			法人で虐待防止委員会を設置している。委員会に参加した職員が事業所にて伝達研修を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			「身体拘束等の適正化のための指針」を作成し、契約時に説明をしている。身体拘束が必要な対象児の利用はない。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	—	—	—		
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○		ヒヤリハット記入用紙は作成している。発生時は記入して職員で共有している。また、法人にも報告している。事例集の作成には至っていない。	今後は取り組んでいく。	